

## 心の栄養剤No50 「石の上にも三年。その続き」

その方は、頸髄の病気を患い、両手足がうまく動きません。ひとりで歩くことができないので、車椅子に頼った生活をしています。そんなFさんのお宅の壁に、こんな文章が貼ってありました。

### 「石の上にも三年」

入院中に、親友から贈られたもので、Fさんはとても気に入っていると書いていました。



石の上にも三年。忍耐が大切であることのたとえですよ。車椅子にひたすら座って、ご主人の帰りを待つFさんにぴったりのように思えました。でも、この文章には続きがありました。

その続きはFさんの親友が考えたようですが・・・実はFさん、その続きのほうが好きだと言っています。

### 「石の上にも三年。三年も我慢したのは石のほう」

「三年も我慢したのは石のほう」Fさんはこう言っています。

「つらい思いをしているのは自分だけじゃない。私はまわりの人にいっぱい支えられている」

Fさんは、自分を支えてくれるご主人、お手伝いしていただける介護の方々連絡をくれる友人、自分が使っている車椅子など、多くのものに感謝しているそうです。

入院当初は、動けなくなった足を憎んで、よくたたいていました。

しかし、今ではその足をたたくこともせず、不自由な足にすら感謝するようになっていました。Fさんは、毎日、いっぱい感謝することがあるそうです

「三年も我慢したのは石のほう」

～「名言セラピー」より～

この話を読んで、先日、講演をお聞きした大野勝彦さんの生き生きとしたお顔と言葉を思い出しました。大野さんは、20年前～45歳の時、農作業中に両腕の肘から先を失ってしまうという大事故に遭われたのですが・・・

何とその事故の3日後より、それまで書いた事がなかった「絵」と「書」を書き始められ、今ではその作品が1万点以上になり、ご自身の美術館を3館も作られた方です。思い出した言葉は・・・

感謝が出来ない～ありがとうと言えない人には・・・

『是非、手を失うと気づけますとおすすりめしたい！』

不幸せだ不景気だと暗い顔をしている人には・・・

『私の全財産をあげるから、あなたの右手を下さい』

と言いたいと・・・そして最後に

『幸せは、なるものじゃなくて、気づくものだと・・・』

という深く重い言葉です。正直～私自身が、Fさんや大野さんの境遇になった時同じように思えるか不安で自信がありませんが、今現実に歩いてくれる「両足」に動いてくれる「両手」に・・・、生かされている事に感謝の気持を持って過ごさなければと思います！！

P.S.

日々～なんとなく過ごしていると、この気持を忘れそうなので先月も再度「大野勝彦美術館」に行ってきました。

